



懇親会矢嶋顧問の音頭で乾杯

関東同窓会総会開催される

時 平成4年6月20日(土)
所 ホテルグランドパレス

懇親会 3階 松の間
総会 4階ボールルーム
今年も小雨模様土曜日、飯田橋ホテルグランドパレスで恒例の第六回総会が開催された。どうして、この梅雨時を狙って総会を、との声が今年も聞かれ



大分県立竹田高等学校
関東同窓会報
第6号

発行者・会長 後藤 鉄石
編集者・足立 五郎
発行所・関東同窓会事務所
東京都中央区築地2-7-12
15山京ビル2階205号
03-3543-8747

たが、時期の問題は、役員会等で検討し
て貰いたいこと。ここでは、特に触れな
いことにする。

出席者、会員一七二名、来賓十名。ど
うやらこの数字が、ここ一、三年の出席
人数として定着したようだが、その陰に
役員、当番学年のご苦労が感じられる。

総会は、池内勇吉幹事長の司会によ
って進行される。渡辺正治副会長の開
会の言葉、後藤鉄石会長の挨拶・続い
て来賓の紹介。幹事長の会務報告・吉
田忠幹事より会計監査報告がなされ、
それぞれ承認された。

伊東七五三副会長の閉会の言葉で
総会は滞り無く終了した。
本年度の総会当番学年は、昭和二十
六年卒と三十六年卒。この幹事の各位
が独創的な企画を打ち出した。即ち「竹
田を考えるシンポジウム」である。総会
の会場で引き続き開催された。
(詳細は、二面に掲載)

盛り上がった懇親会

懇親会は、女性司会者の華やいだ司
会で始まった。

会計報告

収支計算書

(平成3年4月1日から平成4年3月31日まで)

1. 収 入	
(1) 普通会費	43,200円
(2) 維持会費	1,775,000
(3) 当日会費	1,127,000
(4) 寄付金	60,000
(5) 受け取り利息	69,142
(6) 雑収入	300,000
(7) 小 計	3,374,342円
2. 前期繰越金	
合 計	1,864,311円
3. 支 出	
(1) 第5回総会関係費	2,047,483円
(2) 幹事会・委員会関係費	231,096
(3) 通信費	336,925
(4) 消耗品費	71,618
(5) 印刷費	587,838
(6) 雑 費	19,592
(7) 広報委員会	66,159
(8) 小 計	3,360,711円
4. 繰越金の内訳	
(平成4年3月31日現在)	
三菱銀行新川支店 普通預金口座	616,572円
" " 定期預金口座	1,253,882円
現 金	7,488円
合 計	1,877,942円

上記の通り報告します。

平成4年4月30日

幹 事 長 池 内 勇 吉 ㊟

監査報告書

監査の結果この収支計算書は正確であることを認めます。

平成4年5月9日

幹 事 吉 田 忠 幸 ㊟

" 留 高 照 幸 ㊟

を強調されていた。

次いで後藤市長の挨拶の中で、シン
ポジウムで発表された貴重な意見を竹
田市に持ち帰り、取捨選択し、行政、地
域、市民が三位一体になって、ふるさと
発展のために努力して行くつもりであ
るとの決意を力強く語った。

矢嶋顧問の音頭で乾杯、アルコール
も入って懐かしい田舎ことばが飛びか
う中、楽しそうに談笑する輪が広がっ
ていった。シンポジウムの話題もあがり「ふ
るさと」の若い人が真剣に町おこしに取
り組んでいると思った。「型どおりの

会 務 報 告

(抜粋)

平成三年

六月二十二日

第五回総会・懇親会、
出席会員一六六名・来
賓六名。

六月二十一日

顧問会議と竹田地域お
こしの会の懇談会・同
窓会十一名、竹田市九
名参加。

八月五日

役員会、於学士会館、総
会の報告と反省。

八月二十四日

役員・各種委員会 於
学士会館、総会の反省
と慰労。広報委員八木

来賓最初の挨拶
は、母校の大野校
長。施設や生徒の
進学、就職の近況
が説明された。今
年の三年生には、
東京大学志望の優
秀な生徒が数名い
るとの報告もあり、
人材育成の重要性

総会スタイルを脱皮するきっかけにな
ったと思います。「私は東京にいて過疎
化防止策など論じる資格はないなあ」
など賛否いろいろのようだった。

楽しい時間を惜しむように、閉会が
告げられ、来年の再会を約束してお土
産をいただき散会した。

平成四年

二月六日

役員会、於学士会館、総
会会場決定、懇親会の
企画担当学年の決定

三月十二日

役員会、於学士会館、常
任幹事会の開催

四月九日

役員会、於学士会館、顧
問会議・懇親会の企画
について。

四月十八日

常任理事会、於中央新
光監査法人、第六回総
会・懇親会について総
務委員板井健選任。

洋子選任。

役員会、於学士会館、常
任幹事会の開催につ
いて。

常任幹事会、於中央新
光法人、第六回総会に
ついて。

役員会、於学士会館、第
六回総会の会場につ
いて。

竹田を考える シンポジウム

とき 平成四年六月二十日

ところ ホテルグランドパレス

パネラー 菅 謙一郎(竹田商工会議所副会長)

高野 将(竹田町教育委員会)

板井良助(豊後商工会)

高宮 昇(前会長)

里見菊雄(日本共産党)

八木洋子(広瀬委員)

竹田市当局より大塚重夫

コーディネーター 志生野温夫(アナウンサー)

今、郷里竹田においては、地域活性化のために官民挙げて「まちおこし」に取り組んでいます。

そこで、その現状や将来の計画、抱負等を伺うとともに、郷里を遠く離れている我々が外の眼で竹田を捉えて、若干の意見を交換することで、「まちおこし」のほんの一助になればと、関東同窓会総会の催物として「竹田を考えるシンポジウム」が開催されました。

大変ユニークな試みの内容を大まかですがお伝えします。

(竹田市当局からの報告)

・大塚重夫

①一昨年の大水害の貴重な義援金を感謝します。お陰様で復旧工事も順調に進んでいます。

②御多分に漏れず竹田も過疎化、高齢化が深刻で、現在約二万人まで落ち込んだ人口の減少どう食止めるかが重要な問題。行政の力だけでは不足なので

民間の運動に期待を掛けている。

③今後は「水と緑のアクティブ文化都市・竹田」をイメージテーマに、災害から立ち直って、活力ある竹田の実現を目指し努力していく所存。

(パネラーの発言)

・菅 謙一郎

竹田を愛する気持ちが街づくりの基本。人口減少の現状では観光の街づくり、音楽の街づくりを目指すのが最良。滝廉太郎記念音楽祭を全国規模の催しにしたり、音楽協議会を発足させて外部との交渉の窓口にするなど、竹田の町を引っ張ってゆく団体を作ることが、今一番必要なことである。

・高野 将

竹下元首相の一億創生事業で、民間主導型の創生館を、武家屋敷を模して殿町に建設し種々の文化的催しを行っている。岡城の景観づくりにも力を入れ、古木を生かして「もみじの里」にする計画を立て、国に助成金の申請をしている。

・板井良助

ポスト一村一品として一村一文化を提唱し、地域に眠る文化・伝統芸能の発掘、保存をする。日田に通じる九州歴史街道の実現に努力し、町と町の交流の場、芸術家が集う街として、宿泊施設等の充実を目指している。

・高宮昇

第一線で竹田をリードしている方々の御話を聞いて「竹田は健在なり」と大変心強い。竹田を離れた我々も地元とコミュニケーションをとって何かお手伝いできることがあるのではないかと。

・里見菊雄

①竹田を特徴のある街にする。あまたある種の咲かせた方が大事。
②まわりの市町村と提携して如何に人が訪れる街にするか。
③人の話題になり、観光し易い環境づくり。例えば歴史的场所をマイクロバスで巡回させるなど。

・八木洋子

別府から熊本への通過点であるだけの竹田を、竹田でなくては味わえない事や食べ物を前面に出すことが竹田を生かすことになる。

(参加委員の意見)



今回、総会行事に「竹田を考える」シンポジウムが開催されました。竹田からのパネラーとして「竹田の現況と抱負」について話す機会を与えられ、光栄に思っています。

関東同窓会の、三人のパネラーから貴重なご意見をいただきました。感謝致しております。高宮前会長からは、地元への頑張りに対して、同窓会はこれからも応援を惜しまない。特に人的なネットワークを利用し、拡大すべきではないかとのご意見をいただきました。早速商工会議所で対応しなければならぬ課題と考えます。里見顧問からは、岡城址や名水などを近隣市町村との特徴を結びリングを形成したらどうか。また、地域に課題性やトピックスがうごめいているような町づくりをとのご意見をいただきました。また、八木さん・桑島さん・石原さんから、竹田は、観光客の通過地になっているのが残念だ、新しい企てをするのも良いが、竹田の持っている財産にもっと磨きを掛けるべきだ。例えば、岡城の夜桜見物時は、外灯を点けるとか、カボスや椎茸等の特産品を使った郷土料理の開発したらどうか。また神田さんから、早く実行に移して実を上げるべきだとのご意見をいただきました。

シンポジウムに参加して 高野 将 (昭38卒)

ただきました。これらについては、市の観光課や観光協会でも十分議論されなくてはならない課題です。矢嶋顧問から、竹田高校の進学状況や部活動の報告を一年に一回はして欲しい。また、竹田高校教育振興会を設置して、バックアップしたらどうか、との意見がありました。大野校長は、パーティーの挨拶の中で来年から状況報告をすると述べていました。最後に長吉副会長から、見玉さんの伝言が紹介されました。竹田に帰った時、気が楽に帰って話し合える場所はないか、市内の看板をはずして昔の家並みを出せないか、片ヶ瀬の馬場や唐椿をもつと顕彰できないかななどの意見がありました。

以上の意見をいただき、我々町づくりグループは、議論を尽くし、行政に働き掛けながら、町の活性化活動を継続する覚悟です。

和やかなパーティーの席上で、同級生が十名ほど集まり、来年の夏観月祭か新能に合せて三十周年記念行事をやらうということになりました。これからの準備は大変ですが、楽しい同級会にしたいものです。

最後になりましたが、後藤鉄石会長をはじめ、役員の方々二十六回、三十六回の皆様に感謝いたします。

・帰省して気軽に立ち寄れる場所を。限られた時間内でしたが、故郷の現状を知り、又、要望も述べることができて、大変貴重な一時でした。

・さくら祭り期間中の照明の完備。
・周辺町村との協力拡大。
・観光マップの充実を。
・大変良い催しだった。

先輩を訪ねて

精励恪勤・至誠一途に

—ハードな貴金属業—

お客さま 宮崎貞光様
 令室喜美子様同席
 とき 平成四年六月十日
 ところ 帝国ホテルインペリアル
 六C五号室
 聞き手 足立 五郎

—本日はお忙しいところお仕事を先にお邪魔致しまして申し訳ございません。奥様まで御同席頂き大変恐縮でございます。早速でございますが、お生まれは、明治四十年と承っておりますが、今年で八十四歳でございますね。大変お若くご健勝のようにお見受け致します。現在も、三六五日ご出勤でございますか。



宮崎貞光氏 4・6・10

宮崎 はい。足が少し弱っていますが、内職などは大変丈夫で主治医から、「千歳まで生きますよ」と言われています。(笑)ですから、おっしゃる通りに今でも、三六五日店に出ています。日曜、祭日もありません。元旦も出ています。朝は四時頃に目が覚めます。七時半に家を出て、電車に乗り八時にはここ帝国ホテルのオフィスに着きます。各売り場を回ったり、人に会ったりして、夜八時まで十二時間です。往復は電車を利用し、車を使うことは稀です。

—それは素晴らしいことですね。竹田中学校のご卒業は、大正十四年ですか。私は、未だ生まれていませんでした。それで、当時の母校のことなどを聞かせただけませんか。
 宮崎 家が三宅でしたから徒歩通学でした。雨が降るとよく大水が出て、竹田小学校前のつり橋が流されるようなことが再三ありました。当時の校長は、村孝次先生で、地理の北村清士先生と共に特に印象に残っています。二円五十銭の月謝が滞ると、「学校を辞めたらどうか」と冗談を言われたことも今は懐かしい思い出です。
 —竹田中学校を卒業と同時に上京なさったのですか。上京後のお仕事のこゝとや独立された当時のことなどお聞きしたいのですが。
 宮崎 竹田出身で慶応大学を出た浅沼という先輩の紹介で、貴金属を扱う大久保商会に入社しました。そこで働いているうちに何とかして独立したいと思ふようになりました。独立するには資金が要ります。そこで、一杯十銭の飯屋で、塩をおかずにして三食を済せたり、破れた靴から出た指先を墨で黒く塗ったりして、本当に辛抱して、十四円の給料の中から約四円を貯金にするなどして金を貯めました。そして昭和十

二年、十三年間働いた大久保商会を退社しました。

最初は、今の泰明小学校の前に店を持ったのですが、どうしても、帝国ホテルで商売をした方が良くと考えて、昭和十二年七月に、当時のお金で五万円を帝国ホテルアーケード内の小さな店を買って開店しました。旭商店の創業です。

—しかし、開店が昭和十二年の七月と言えば、日支事変の始まった月でした。確か、十四年には、国家総動員令法が発令されたわけですが、貴金属関係の厳しい統制が始まって、創業早々大変な苦労があったのではないかと思いうのですか。

宮崎 それが、ラッキーマンに、旭商店は、枢軸国(ドイツ・イタリア・中国等)の人々への販売の許可が与えられていたため、お客さまには困りませんでした。



帝国ホテルインペリアルの前会長室で

期間でしたが、沢山の宝石類を買ってくださった上得意様でした。
 —しかし、戦後の物資不足の時代の日本人は、とても宝石には手が出なかつたと思います。したがって戦後の何年間かは、ご苦労だったと思います。
 宮崎 どなたもそのようにおっしゃるのですが、実は、この時も私は幸運でした。帝国ホテルは、戦後接収されました。そして、駐留軍の大佐以上の宿舎となったのです。言わば、治外法権の状態が保護されまして、商売は非常に順調でした。真珠や金銀が良く売れました。一ドル五百円という間の交換レートの時代でもありました。商売は順調でしたが、大変忙しくて身体はきつかったですね。いずれにしても、帝国ホテルに店を持つことが幸運でした。
 —戦中戦後を通じて、幸運の女神がついて回ったわけですね。人は、「順風満帆」と評するでしょうが、言葉に言い表せないご苦勞・ご苦心・ご努力の賜だと思えます。ここらで、宮崎先輩の企業経営哲学とか人造りについてお伺いいたします。

宮崎 精励恪勤・至誠を宗としていまはきらびやかで、優雅な仕事のように見られがちですが、実際は、非常にハードな仕事です。
 現在、四十人の社員が働いています。入社した時に、安易な考えでフラフラしたところがあつた社員も、二、三年もすると、大変真面目になり、ピシッとってきます。
 経営哲学と言えるかどうかわかりませんが、税金等、納めるものはきちんと納めることを、モットーとしておりますので、優良申告法人として度々表彰されてきました。
 このところ、世界的不況と、同業者同士の競争が激しく、貴金属の業界も景気の陰りが出て、年商も落ち込んできました。旭商店は無借金で頑張っています。
 —最後になりましたが、竹田高校の後輩に対して何か一言お願いいたします。
 宮崎 至誠、至誠です。この一語に尽きます。
 —本日は、長時間本当に有難うございました。奥様との二人三脚で、ますますのご発展をお祈り致しております。

宮崎貞光氏略歴

出生。大正12年(1923年)岡本村(大正14年)竹田中学校24回卒業。S、32年KK小売店を開設。S、32年KK小売店を開設。代表取締役就任。S、49年新宿住友ビル内に支店を開設。S、51年本社内に外商部を開設。S、53年本市の名誉市民に選定される。同年サンシャインシティ内に支店開設。S、58年インペリアルプラザに支店開設。本社をインペリアルタワーに移す。S、62年旭商店取締役会長に就任。S、63年KK宮崎宝飾を設立。代表取締役就任。表彰関係S、54年東京国税局長賞・S60年国税庁長官賞・S62年大蔵大臣賞。H2年勲五等瑞宝賞受賞。

会員の語らい

「臥牛城」の由来考

高宮 昇 (昭八卒)

関東同窓会の会報の名称が「臥牛」となった。言うまでもなく郷里竹田の名城、岡城の別称は臥牛城であり、六十年前に制定された校歌にもその冒頭に「暁早くそのかみの 臥牛城頭輝きし……」とあって、代々歌い継がれて来た。

ところで、この際臥牛の由来を会員にも改めて披露すべきだが、関東同窓会ではそれが誰にも判からない。そこで、地元竹田に当たってみてはというこ

とになり、私にそのことが託された。私は、これを中学校時代の級友の元中学校長の西田大介君に手紙で依頼した。しばらくして律義な同君から返事が来た。「図書館・資料館・消息通とおぼしき人など極力当たってみたら結局判らなかつた。悪しからず了承を請う」とのことだった。私は、その責めを何とか果せないかと気にしながら日を過して

いた。そんな折からのこと、ある日、はしなくもわが書架の一週に古びた一冊の本を何気なく取り出した。それは、明治・大正・昭和の三代に亘り母校で教鞭を取られた。故林勝見先生の遺稿集で、昭和三十五年の刊行となっている。

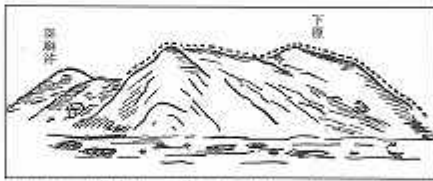
その中に、昭和十四年一月六日の日

付で「臥牛城」と題する一文があるのを発見した。丹念な筆致でかなりの長文であるので紙面の都合上、残念ながらありましただけを以下に抄記させていただくことにしたい。

臥牛城 中 両山・記

(注) 両山は林先生の雅号

豊後竹田の岡城が、別名臥牛城と呼ばれているのは、余りにも有名である。予は、臥牛という形容詞が疑問になつて、古老に就いて説明を求めたけれども、今日まで満足な解答は得られなかつた。(略) どうしてそんなに見え



点線の輪郭をみれば、臥牛の体形となる

るのか、どこかよりの所がありはせぬかと、脳裏から離れない。(略) 仮に、わが郡の首都竹田町の方面から遠望しても、途中の丘に遮られて、僅かに西丸の側が空に浮かぶに過ぎない。南方

提灯谷や、北方川下方面から眺めて、僅かに局部らしき所を窺うまでにて一向に見当がつかない。上角方面から

見ても臥牛らしき姿とはならない。(略)

さらば、東南方片ヶ瀬方面からの展望がよろしからんかと、杖を曳いてみた。(略) 片ヶ瀬高台の一角、行灯山(今の塚原)に登つて遙かに岡城を望見した。(略) 封建時代に比較して、谷間の建物も少ないから、より良くその姿が見らるる事情の下にありながら、牛の身体に当たるといふ形の存在はない。(略) けだし昔の人は文雅の呼称として名付けたのみで、形の上の名称ではなく、鶴とか亀とか植物名とかで、風雅な名称を付けたものと同様なものではないかと諦めかけていた。

予は下原方面を岡の研究上第一着手として、(略) 河内谷を下つて地獄谷の対岸岡本村十川べりから、下原丘を眺めようと企てたのである。(略) 今日

も河畔より下原丘を仰ぎ谷の曲がりし程度などスケッチしつつ、安山岩の亀甲形をなせる河床を踏み締めながら流れに沿つて下つていた。涼々たる稲葉川の瀬の音に清らかな高調の「ひよどり」の鳴き声が、この場面の伴奏であつた。十川「松明杭」(たいまつぐい)を背にして(略) 十川より河内谷へと川を隔てたる岡城丘と平行になつて

いる丘陵を伝わっていくのが今日のコースとなつた訳である。(略) 約五、六十米登つて眼下に稲葉川

向こうには下原丘を眺めた。時は午後二時頃、太陽は南西に輝いている。(略) 丘の線と谷とは、陰影の濃淡がはつきりしている。(略) 第一に気付いた部分は曲がつて突き出した部分で、頭に浮

かんだのは牛の首筋である。この丘を牛の身体の一部と見始めた瞬間、首から頭、首から背と、考えれば牛が臥し



ああ、これこそ臥牛城

ている様に思われてならない。(略) あああれだ。臥牛城はこれだなど点頭したのである。

勿論、数百年前いかなる学者が命名したか判らない。(略) 自分の見方が余りに牽強附会の臥牛であるかも知れない。しかし、自分にはヒントではなくサゼッションを得たように感じたのである。(略)

藩主中川秀成公は今日の岡城を築城したのだけれども、それより以前大友の一族志賀氏時代までの岡城は、下原方面であつた。その城下町は十川及び狭田であつたから、臥牛城として眺めるためには、どうしても十川方面から眺めた名称であると言つても差し支えなからう。臥牛城の名称も、文献から見れば既に志賀氏時代に命名せられていた関係から、十川方面から見たと

ころが適切なことであると思ふ。(略) 同日午後四時過ぎ、これに似かよつた他の場合に出合つたのである。川下

高流寺の東側石畳の道路を登つて、狭田に至る旧街道で愛宕山の対岸にある丘上近くから、河内谷、三日月岩方面を眺めると、丘が臥牛に似かよつて見えたのである。(略) 霜枯れの草木は、恰も褐色の牛の毛のような感じを起こさせる。そして向き方は、背中から尻の方を手前の方へ向け、首から頭

の方は三日月岩の方へあるかのように見える。さだかには判らないが、岩の三日月が目に見当する様にも思われた。(略) 臥牛の丘と岡城とは、前後別々にあるとはいへ、これも臥牛城の絶好なる景色であると感じた。(略) この他にも見方によつては、臥牛の真の姿がまだ所々に見えるかも知れない。

けれども予が眺めて痛感したのは、以上の二つが主なものであつた。もう一つは、三重街道から下原を眺めて、それらしき輪郭を捕らえても見た。(略) 若き小牛、前途洋々たる、潜勢力かつ持久性に富むこの名称、臥して憩うは、一旦緩急の場合憤然と立上がらんとする姿勢である。(略) 天下の堅城としての岡城は、僅かに「荒城の月」の面影のみ残して、昔の臥牛城よりも、荒廃の残骸により天下にけん喧されつつあり。嗚呼。

軍神の 立ちし臥牛の城の景

描かざりしか画聖竹田

描かざりしか画聖竹田

会員の語らい

男女合同クラス会

阿南次 男(昭八卒)

旧中学校の在京昭八会の呼びかけで旧女学校の昭和七、八年卒業の関東在住の人達との合同クラス会を、去る三月二十七日銀座の五合庵で開きました。花冷えの日でしたし、それに折悪しく十年ぶりの私鉄ストにぶつかりました。その難関も突破して定刻までに出席予定の女性五名男性六名が集まりました。

況、老の過ごし方等、うちとけた懐旧談が弾んで、喫茶店まで話を持ち越す和やかな思い出深い出会いだったと思います。名残り尽きないままに、再会を約して別れました。

他年度の旧制の諸兄姉に申し上げます

後藤竹田市長を囲んで

伊藤 昭 英(昭二十卒)

こんな男女合同クラス会は、前例もないし全く初めての試みだったので、参加してくれるかどうか心配だったのですが、これも危惧に終わり成功でした。お互に初対面の挨拶でもごも出身地や旧姓などを披露し合い、その後は、故郷の思い出や、いろいろな人の近

す。いろいろな制約があると思いますが、男女合同の老いらくクラス会の開催をお勧めいたします。こうした交流の輪の広がりは、今後の懇親会や会合でも広がり、ひいては同窓会の発展になるのではないのでしょうか。当日の記念スナップと合わせて報告いたします。

(出席者)

平林キクエ・松田和・久保タケ・野口初子・水野美恵子・高宮昇・益永孝・三宅善喜・相馬勝・高橋満吉・阿南次男。

弁護士伊藤君から、「後藤市長が上京する。クラス会をやる。音頭をとってくれないか。」との電話を受けて、日時、会場を決めて、まずは、電話連絡。(市長は同級生二十年卒の仲間は、十九人、内出席の返事を貰ったもの八人。上等、上等と自画自讃。願わくば、当日都合が悪くなる人が出ないことを祈りながら、改めて案内状を書いて投函する。)

午後五時半
平成四年二月二十六日(水)

場所 中央区築地の多喜本
会費 略

当日は、知る人ぞ知る二・二六事件の雪の日。しかし、幹事の心掛けの良さが雪はおろか、雨も降らず暖かい夜だった。加えて、昔は、遅刻の常習者も定刻に顔を見せて会を盛り上げてくれる人は、年と共に変わるものである。

同窓会の輪を広げよう

高山俊英(昭四十一卒)



4・2・26 於築地多喜本

定刻を過ぎること三十分。しかし、一人だけ顔を見せない。竹田から馳せ参じた後藤市長も到着しているというのに。電話を掛けに部屋を出たところでは、遅刻は、交通渋滞が原因だった。彼の名誉のために付け加えたい。

全員が揃ったところで、堅苦しい挨拶は抜きにして乾杯。「初めチョロチョロ 中パッパ」の何かのたとえに似て、良く飲み、良く食べ、良くしゃべる。幹事としては、これが還暦を疾うに過ぎたおじさんたちの胃袋かと、些か気になるもじつと我慢。

私達は、昭和四十一年、竹田高校を卒業しました。入学時は第一ベビーブームでした。各クラス四十余名編成で、普通科は十クラスあったと思います。卒業後、進学、就職のため故郷を後にして、大阪や東京方面へ発った者、地元で就職し、また家事手伝いに従事する者それぞれ進路は異なりましたが、各々元気で頑張っていることと思います。

私達の東京地区での同級会は、五年前より催される様になりました。この同窓会は、後藤猛一君の御努力、御尽力により、発足することが出来ました。御多忙にもかかわらず、毎年同窓会の幹事役としても、頑張って頂いています。また、竹田高校関東同窓会の幹事も務



旧女学校と旧中学校・合会クラス 4・3・27

最後に、後藤市長の四選を期して散会する。適量の酒に晩冬の外気が頬に心地良かった。

当日の出席者。後藤宗昭・朝倉三郎・伊東七五三・小野薫・四宮担・真崎竜介・三浦親信・足立五郎・伊藤昭英。

められています。

一回目の同窓会は、新宿の中華料理店「東京飯店」にて開催され、男女、二十五名の参加者がありました。卒業以来の級友との再会で、喜び、驚き、とまどい等が交錯し、古き良き高校生活の一コマ一コマが再現されている様で、感動的でした。また、子供の教育、進路の話題もあり、いつのまにか時が過ぎていきました。会の終りに、二回目の同窓会の日時が十一月三日と決まり、祝日でもあり集りやすいため、以後この日を開催日とすることになりました。

参加者の多くは東京をはじめ、近郊の千葉、埼玉、神奈川に居住している方々でしたが、最近茨城、そして昨年は遠く名古屋からもかけつけて下さった方がいて、一同感謝していました。

今後は、年一回、青春時代に戻り、リフレッシュをかねてより多くの方々に参加して頂き、楽しく輪が広がります。育つ様にと、思っています。



第1回、クラス会、新潟で

ふるさと便り

新しき事ふるき事

同窓会本部幹事長 波多野英次 (昭二十八卒)

皆様ご活躍の事と拝察致します。ご承知の通り先日、飯尾憲士先生原作の芥川賞候補作品「ソウル位碑」が、テレビドラマ「別離(イビヨル)」としてNHKのスペシャル番組で全国放映されました。放映前より新聞等で全国的に話題となっておりましたが、特に地元竹田市では、感動のドラマとして大好評でした。あまり知られていませんが、飯尾先生は一時期、母校の竹田高校で教鞭をとられた事があり、私共の年代の者は薫陶を受けております。又奥様の真弓さんは私共と同級で多才豊かな人でした。

話は変わりますが、女性四人カレン、フリーマン、シーラ、エリザベス、それに男性二人ダグラス、ジョンの外人六人は、岡城桜まつりの姫行列に腰元や警固役で参加した竹田市内在住の人々です。特にこの中のシーラ・ウェブスター女先生は竹田高校の英語指導助手(AET)です。岡藩主、中川の殿様も、時代の流れとお笑いかも知れませんが、お姫様は金曜ドラマ「木の实ナナ物語」で主役を演じ益々活躍の諸岡菜穂子さんでした。ミス

岡城址・鳥養先生撮影



竹田・緒方・萩に交って竹田高校、竹田商業の女学生も、きらびやかで立派でした。

現在、大野町では飛行機が離着陸しています。セスナ機ですが、人を運ぶのではなく農産物等のフライト商品は輸送しています。このフライト商品は皆様方の食卓にも上っているかも知れません。大相撲の千秋楽では大分県産椎茸農協(OSK)から椎茸の入った優勝トロフィーが渡されますが、あれも竹田、大野、直入地方の産品と思っ頂いて間違いありません。

先日、朝地町の「朝倉文夫記念公園」を散策してきました。東洋のロダンと云われた彫塑家、朝倉文夫氏は昭和三十六年、朝地町の生家周辺を「愛の園生」と名づけて、作品を収蔵する記念館の建設を計画しました。しかし、志半ばにして三十九年逝去されました。朝地町はその遺志を継いで広さ約十萬四千平方メートルの、豊かな自然に包まれた公園を完成させました。記念館には朝倉芸術を觀賞するに充分な作品が収められています。今年の七月からは、大分県と朝地町は朝倉先生を顕彰するた

め、新進彫刻家の登龍門となる「大分アジア彫刻展」の準備を進めています。審査員には美術評論家の本間正義氏、河北倫明氏、彫刻家の富永直樹氏、芸大の澄川喜一氏等の名が見られます。竹田市が発行した広報「たけた」で長吉泉様のリレー随想を拝見しました。以前竹田市内の某料亭で御祝辞を頂いた時の事が懐かしくよみがえって参りました。

本紙に、以前、後藤紀子さんの著書「花筏」の一文を引用させて頂きましたが、最近の著書「工芸盆栽幽玄の美」サブタイトル「美術館の新しい華」という豪華本を拝見させて頂き感激致しました。心から御礼を申し上げます。

大野郡医師会の活動

岡本雄三 (昭二十五卒)

私の家は明治二十年頃から長い間、藪医者を通じておりますが、三代目の私も大野郡医師会に加入して早くも二十七年が流れました。

本年四月から大野郡医師会長として日々の会務を消化し、且つ己の糊口を浚ぐかに心身を磨り減らして居ります。在京の皆様方にはいささか耳馴れない事とは存じますが、藪医者の目から見た故郷の近況をお汲み取り下されば幸甚でございます。

想えば、日本医師会が武見会長の退陣と共に、圧力団体の魅力？を失ってから田舎の医師会もすっかり老化と減



九州養老看護専門学校 (昭四、四年度) 老健施設開設予定地

少の道を通って居ります。一時は会員の平均年齢が七十歳を越え、往年の医師会員の活気が失われて、形骸化寸前の医師会の姿に失望の日々を送る時代もございましたが、その後各県医大の新設と共に、郡内公立病院医師の充足と相前後して、若い開業医が次々に誕生いたしました事は、大野郡医師会若返りとして恂にお目出度い限りではございますが、一方では、これに伴う様な軋轢も多々生じまして、必ずしも手放して喜ぶ訳にはいきせん。

私が会務に深く携わる様になりましたが、十五、十六年にもなりますが、いささか人様に物を申し上げる様になりましたのは、昭和四十六年から三重福祉事務所管内(竹田市を除く大野、直入十ヶ町村)の在宅重度身体障害者訪問診査を開始してからと言えましよう。

爾来風雪二十年を越えコケの一端で続けてまいりましたこの仕事は、遂に私のライフワークとはなりましたが、この間に痛切に感じさせられる事は、県南切り捨て行政の悲哀でございます。

「木下さんはな、飛行機に乗る人は金と暇がある人だけじゃけん、ちったあ不便じゃけん」と、国東に飛行場を作ったんで、命旦夕に迫った県議会有力者だった芦刈蘭一氏(故人)の言葉が、主治医だった私の耳に今も生々しく残って居りますが、日本で最も遠くて不便な国内空港という悪評に対して県政は常に県北重視の態度をとり続けて居ります。

大分、別府両市は、急速に膨張して若い年齢層を吸収し、ガソリン農業で土地にしがみついた老人だけが田舎に取り残されました。この影響を緒に受けて、平均高齢率二十三日を越える豊肥地区では、ショートステイ、入院、老健とつないで略一年の待機期間に耐え凌いだ後、ようやく終の住処とも言える特別養護老人ホームに辿りつくというパターンが定着して居ります。

余りにも無定見とも言える老人対策の結果はまさに現代版姥山でございますが、老いて病む豊肥の医療を支える為に、私共大野郡医師会員は数年前から百床規模の医師会立老健施設を計画し、年内着工の見込みでございます。

本年四月には三重町に高等看護学校が発足し、老健と隣接して看護と介護の暖い学生ボランティアを期待して居りますが、貧弱な当医師会にとってはいささか重荷とも言える老健建設事業完遂の為に、各会員の奮励努力を鼓舞すると共に郡内町村にも広く御協力と御賛同を呼びかけて居ります。在京の皆様方にも是非共絶大な御声援を給うます様お願い申し上げます。

会員の語らい

テレビドラマ

「離別」の方言指導

津野哲郎(昭三十三卒)

本名・佐藤朝生



最近の津野哲郎氏

「光陰矢の如し」高校を卒業して早や三十二年…。改めてこの格言を実感している今日この頃です。

上京後、ひよんなことから役者稼業に足を踏み入れ、今年で二十八年経ってしまいました。かつてNHKドラマ「潮騒」の主役で幸運なデビューをし、以来数々の舞台、TV、映画に出演しましたが、そのひとつひとつの作品に各々の思いがあります。なかでも出身地である大分、竹田を舞台にした作品はやはり一方ならぬ想いを抱いてしまっています。

十一年前の榎本滋民作・演出、田村高廣主演の舞台公演「風光り水澄む郷」豊後春秋記大友宗麟、TBS連続ドラマ、井沢満、矢島正雄共作「愛ひとつまみ」。そして今回のこの原稿を書きかけとなった本年三月放映のNHKド

ラマ「離別」。この作品で方言指導という立場で参加させていただきました。私には不覚にも飯尾憲士先生の原作「ソウルの位牌」を読んだことすらなく、そのうえ飯尾作品を全く存じあげぬ役者でした。不安ながらも「愛を…」での方言指導の経験はたよりにお引受しました。

台本を読み込む程に作品のテーマを初め諸々に感銘を受け、さてこの素晴らしいさをいかに竹田弁で表現すればいいのか…と頭を悩ませました。と言いますのも全国放映では、忠実な方言ですとキャラクター、状況等のニュアンスが、そして何よりも、何を言っているのか、その内容が外の人には伝わりにくくなってしまふ恐れがあります。

こうした制約のなか脚本・演出の岡崎栄氏のご理解をいただき、飯尾先生も竹田弁に関しては任せて下さるとのこと、心強く取り組むことができました。

さて第一段階、台詞を竹田弁に手直する作業です。例えば「せちい」「よだきい」竹田の方には当り前のこの素敵な方言、他の言葉に変えるとニュアンスが違ってきます。果して全国区で通用するだろうか? 「…なア」という表現も女性には如何なものか…等々、自

分で声にしなから、東京出身の女房に聴かせながらの作業です。

次にそれをテープに吹き込み、役者さんに渡します。勉強熱心な岩本多代さんは電話でもイントネーションの確認をしてくれました。そして本読み、立稽古、本番、勿論ソウルロケ以外私も全てに立会いました。流石に田村高廣さん、岩本さんは大ベテラン、僅か数日で見事に竹田弁の味をご理解下さいました。若い俳優さん達は演技と方言のバランス

スに一生懸命でした。

こうして出来上がった作品は全国の皆様から高い評価を頂き、私も参加した一員として今、誇らしく思っております。そして関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。

まだまだ書きたい事は沢山あるのですが、何分にも話すことが本職の私、書くことは苦手。拙い文章ですが、竹田出身の一演劇人としてここに寄稿させて頂きました。

楽しむ心で気持は若く

詩吟、ゴルフにボーリング

岡村光博(昭三十二卒)

心と心が触れ合う本当の出会い、人との出会いだけでなく、音楽や絵や宗教、スポーツなどにもあると思えます。その中から、生きがいのある人生、夢のある人生が生まれてくるような気がいたします。

「国破れて山河あり、城春にして草木深し…」杜甫の「春望」の一節ですが、この漢詩を、眼を閉じて吟ずる時、故郷「岡城址」が嶮の奥に浮んでまいります。

帰省して、岡城から遠く霞にけふる久住大船の山並みを眺むれば、一層望郷の念、強いことを感じます。

「鞭声肅夜河を過(わた)る…」頼山陽の「川中島」には、遠く小学生時代の記憶がよみがえってくるのです。

謡にも負けずに吟じて、二人の門出を祝うことができました。

腹の底から発声することで気分爽快になり、大勢の前で吟詠すれば度胸もつきます。

ボーリングを本格的に始めたのは、詩吟仲間の一人から勧められてからです。心身共に健全な趣味になり、高齢になっても楽しめると思ったからです。週一回三ゲーム競ってありますが、快適さを味わい、運動不足解消に役立てております。アベレージ一六五です。

ゴルフは、キャリアアこそ二六年ですが、まだ悩んでおります。唯一つの自慢は、昭和五十二年五月にホールインワンを達成したことです。

神奈川県人会、大野郡人会、竹田会など同郷のコンペに参加して、心の触れ合いを大切にしております。



会員の語らい

女学校の校歌も歌いたい

田部 洋子 (昭二十七年卒)
(旧姓真田)

今年もまた、雨の同窓会になってしまった。関東同窓会は、どうして六月の梅雨のさなかに開催するのだろうか。東京には、素敵な五月晴れ、十月の秋晴れがあるのに。役員の方々は、ご存知無いかしら。出席の度に囁かれる言葉である。

私は、この会には、第一回目に参加した。この会に出れば、忘れていた先輩に逢うことが出来るかも知れない、同級生にも逢えるひよつとすると幼な友達にも逢えるかも知れないという期待感に胸ときめかして参加したのである。

しかし、この期待は裏切られた。同級生は、誰もいなかった。知らない先輩ばかりで、話し相手はなかった。きよろきよろ目玉ばかりを動かして、知人はいないかと探し求めた。お陰でたいへん疲れてしまった。同窓会は疲れる、もう、参加するのは止めたと心に決めて、二、三、四回は参加しなかった。

でも、私はやっぱり同級生に逢いたくなかった。こんな気持ちになるというのは、やはり歳なんだろうね。そこで、去年の第五回総会に参加した。思いがけない方に出会うことが出来た。四十何年ぶりであろうか。懐かしさと嬉しさを涙してしまった。そして今年、また、中年紳士になった、今は亡

き従兄弟の子供に逢えて、またまた、涙の再会となった。

去年も、今年も、私にとっては、同窓会総会さまであった。逢えば、忘れかけていた竹田の方言が、何の気兼ねなく自然に口から出てくるから不思議だ。これは、毎年実施しているクラス会とは、少し違うようである。理由は、私には分からない。

ところで、この同窓会の会員には、女学校出身者も多く居られるはずである。毎回、会の終わりにステージでは、「荒城の月」と「校歌」を合唱しているが、校歌は、旧制竹田中学校の校歌である。女学校の出身者には馴染みの無いものだ。そこで、一つの提案だが、今では殆ど歌われることのない旧制女学校の校歌も、あのステージで歌わせて貰えないだろうか。

亡き母や伯母、そして姉達と一緒に口ずさんだ「竹田高等女学校の校歌」を.....

天雲遠くそそり立つ
九住の峯の高きかな
よし高くとも一條の
路を辿りて頂きに
立たでは止まじ努め努めて

'92 五月十九日(二十四日)
AM十一時~PM六時半(最終日PM四時)
会場 中央区銀座一丁目三十一
昭和画廊

画伯略歴

35年竹田高校卒。39年日大芸術学部卒。日仏現代美術展、西日本美術展、土日会展、大分県美術選抜展等に出品、県展 大分県芸術会館賞、文部大臣賞外受賞。

竹田市在住の阿南英行さんが個展

竹田市在住の画家、阿南英行さんの個展が十九日から二十四日まで東京・銀座の昭和画廊で開かれている。東京の個展は四回目で、約二十点を出品。作品は花を描いたものと、風景を描いた作品に大別される。花を描いて作品では野の花やツバキ、バラなどを題材に取り上げ、丁寧に描いている(略)

トピック

阿南英行展

風景画のほとんどは、九住や阿蘇の周辺の情景を描いている。(略)

(五日二十三日付、大分合同新聞記事より)



〒246 横浜市瀬谷区二ツ橋町二九二

医療法人産育会 堀 病院

理事長 堀 健一 (昭二十卒)

電話 〇四五(三九二)二五六一~三

坊が つる 讃歌

- 一、 瞳が花に 酔うときも
残雪恋し 山に入り
涙を流す 山男
雪解の水に 春を知る
- 二、 深山霧島 咲き誇り
山くれないに 大船の
峯を仰ぎて 山男
花の情けを 知るものぞ
- 三、 四面山なる 坊が つる
夏はキャンプの 火を囲み
夜空を仰ぎて 山男
胸を誘うは このときぞ
- 四、 いて湯の窓に 夜霧来て
せせらぎ聞こゆ 山の宿
一夜を憩う 山男
星を仰ぎて 明日を待つ

久住高原「坊が つる」キャンプ場をうたった歌

あとがき

▲臥牛六号をお届けいたします。残暑なお厳しい毎日ですが、会員の皆様ご健勝でございませうか。

▲初めて実施いたしました「竹田を考るシンポジウム」を出席できなかった会員のために記事にしましたが、パネラーの意向を十分に再録できませんでした。お許しください。

▲今回は、宮崎貞光先輩を訪ねました。「精励恪勤至誠を宗とする」という

言葉を宮崎先輩から直接お聞きすると、この言葉の重みがじわっと伝わって来ますから不思議です。

▲「臥牛城の由来」がはつきりいたしました。高宮さん有難うございました。残念なことは、林先生の格調高い論文を全文掲載できなかったことです。

▲広報委員会が、また充実しました。次の三人です。田部洋子(旧姓真田)二十七年卒・榎本潮(旧姓麻生)二十七年卒・三尾まゆみ(旧姓小河)五十四年卒。ご期待下さい。